

## 大学名：北海道教育大学釧路校

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	メールでの問い合わせが2件あり、対応することができた
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	メールでの問い合わせに対して相談に応じた。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	コロナ禍により学校支援及び講演等が制限され、講演の要請はあったが、直前で中止になるなど、満足いく支援は行っていない。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	コロナ禍により学校支援及び講演等が制限され、講演や出前授業の要請はあったが、直前で中止になるなどしたため、実施していない。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	開催していない
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	コロナ禍により学校支援及び講演等が制限され、講演の要請はあったが、直前で中止になるなど、満足いく支援は行っていない。また、同様に教材開発も行うことができなかった。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	できていない
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	できていない

	<p>3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。</p>	<p>旅費等も確保できないため、連携事業はできていない</p>
<p>国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。</p>	<p>1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた</p>	<p>講演等が実施できず、意義を伝える場面を作ることができなかった。</p>
	<p>2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。</p>	<p>協働する活動は行っていない。</p>
	<p>3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 (例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)</p>	<p>支援していない</p>
<p>その他の活動</p>	<p>1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	<p>ESD 実践論の講義を通して、学生には広く周知を図っている。</p>
	<p>2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。</p>	<p>ESD 実践論において、ESD センター関連職員がオムニバスで専門と ESD を関連させて講義を行っている。</p>
	<p>3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。</p>	<p>ユネスコスクールに関する調査活動は行っていない。</p>
	<p>4. 自由記述</p>	